



平成30年5月

あかるく・やさしく・たくましく

今回の内容

## ■シナプス！

今回は改めてこの園長室だよりの題名にもなっている「シナプス」についてお話しさせていただきます。前園長の時の園長室だよりの題名が「シナプス」だったことを知る人がどれほどいらっしゃるのかわかりませんが、その「シナプス」を承継しているので、『続』と付けさせて頂いておりますが、当園における教育の根幹がこの「シナプス」にあるといっても過言ではありません。

では、「シナプス」とはそもそも何なのかということとなりますが、簡単に言うと脳内における神経細胞同士の情報伝達を行う接合部分のことを言います。このシナプスから放出される化学物質によって神経細胞同士がつながり、そのつながりの密度が濃く、複雑なほど脳の機能が上がるという訳です。

人間の行動・思考は、脳あるいは神経細胞が司っているといっても過言ではありませんが、そもそもこのシナプスの繋がりは、生まれてすぐの赤ちゃんにはできあがりしていません。そういう状態から3歳くらいまでに7～8割、小学校に上がる位までに9割ほどが完成し、成人までに細かな部分の調整が行われます。この繋がりを促すのに必要な重要な要素が「外部からの刺激」になります。

「外部からの刺激」でまず大切なのは当然五感（視覚・聴覚・味覚・嗅覚・触覚）です。特別なことをするよりも日常生活の中で様々な刺激に触れ、五感を刺激することが何よりも効果的です。また、同時に運動機能とリンクすることで、より脳の発育が促されると言われています。

最後に、人として忘れてならないのは「言葉」です。人は言葉を使って物事を考えます。だからこそ、できるだけたくさんの言葉に触れたり、たくさんの会話をしたりすることで、子どもたちの語彙力が増え、その思考力も増します。しかしながら、小さい頃から無理やり様々なことを覚えさせるのは逆効果です。あくまでも遊びの中で何事も楽しみながらの環境の中でというところがポイントになりますが、まさに、当園の体育ローテーションや日課活動がそれにあたります。

脳の発育をよくするという事は、いわゆる様々なことに対する処理能力があがり、考え方も広がるということです。もちろん、全ての根底には子どもたちに対する愛情があつての事ですし、「シナプス」の発達、子どもの育ちの一つの側面でしかありませんが、子どもたちが将来、困難にぶつかった時の問題解決能力や自己抑制力等、非認知能力の向上に繋がる一助になればと考えているところです。

園長 野口 大仁

## ■園長コラム

### シナプス！



※「シナプス」イメージ

## ■保育日誌から

～子どもたちの様子を先生の観点から～

先生たちが書いている「保育日誌」から、抜粋したものを掲載！子どもたちの日常の姿を先生目線でお伝えします。

## ■身長・体重

### そして万歩計！

月に一度行う「身体測定」の数値と子どもたちの園内での運動量を把握するために定期的に計っている「万歩計」の数値をお伝えします。

## ■今西先生の体育レッスン